

「現代GP」採択 98件 / (申請 501件) 「特色GP」採択 48件 / (申請 331件) !

—多様化・細分化する大学教育支援策—

旺文社 教育情報センター 平成 18 年 9 月

文部科学省(以下、文科省と略)は先ごろ、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(以下、「現代GP」:GP=Good Practice)の18年度分として、501件の申請に対し98件を採択した。また、「特色ある大学教育支援プログラム」(以下、「特色GP」)では331件の申請に対し48件を採択。既存プログラムでの募集対象の拡大により、医療人教育に関するプログラムでは6年制も開設した“薬学部”の取組が新たな対象となった。

教育改革プログラム全体の18年度予算は29億円アップ

「大学教育改革への取組が一層促進されるよう、国公立大学等を通じた競争原理に基づいて優れた取組を選定し、重点的に財政支援する」という文科省の施策に対する各種プログラムが近年多様化してきている(図1参照)。18年度の新規プログラムはないが、申請区分や募集テーマの変更などがあり、特に「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」の申請対象大学は「大学病院を置く大学と薬学部(6年制学科)となり、“薬剤師養成”にも財政支援が及ぶことになった。全体の予算額も18年度は562億円と17年度より29億円(5.4%)アップとなっている。

なお、「21世紀COEプログラム」は、18年度の公募はなく、「研究教育拠点の継続的支援」や「16年度採択拠点の中間評価」のための予算措置となっている。

【プログラムの狙い】

多様な取組が実施されているが、各プログラムに共通する狙いとして、以下の3点があげられる。

国公私を通じた競争的環境

- ・国立大・公立大・私立大といった各設置者別の支援(国立大学法人運営費交付金や私立大学等経常費補助金など)とは別に、積極的に教育改革に取り組んでいる大学等を通じて申請数の1~2割程度を採択するなどの「競争的環境」を整える。

第三者による公正な審査

- ・専門家や有識者で構成される選定委員会による第三者評価の実施や、事前に審査方針・手順を公表し、説明会も実施するなど公正性・透明性の確保を目指す。さらに、採択大学・非採択大学の両者に理由を加えフィードバックする。

社会への積極的な情報提供

- ・文科省や(財)大学基準協会によるフォーラム開催、事例集等の発行や各種媒体を通じた情報提供。
- ・採択された大学等の積極的な情報発信(ホームページの活用、独自のフォーラム開催など)。
- ・採択された大学以外の大学が取組を計画・実施することで高等教育の活性化、質の向上を図る。

以下、大学(短大)が主な対象となっている取組の中から、「特色GP」と「現代GP」を中心に詳細を紹介する。

大学教育改革の支援策

平成18年度予算額 562億円(17年度533億円)

—各大学などにおける改革の取組が一層推進されるよう、国公私立大学を通じた競争的環境の下で、特色ある優れた取組を選定・支援—

* 予算額は18年度、()内は17年度

(1) 課程に応じた教育内容・方法の高度化・豊富化の充実

〔対象となる学校〕

◆特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)・・・予算額35億円(33億円)

大学・大学院(修士課程)・短大

◆「魅力ある大学院教育」イニシアティブ・・・予算額42億円(30億円)

大学院

(2) 現代的課題に対応できる人材養成と大学の多様な機能の展開

◆現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)・・・予算額46億円(30億円)

大学・短大・大学院・高専

◆大学教育の国際化推進プログラム

〔長期海外留学支援、海外先進教育研究実践支援、戦略的国際連携支援〕・・・予算額19億円(24億円)

大学(一部、大学院・短大・高専を含む)

(3) 社会の要請に応える専門職業人養成の推進

◆法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム・・・予算額16億円(18億円)

専門職大学院

◆資質の高い教員養成推進プログラム(教員養成GP)・・・予算額9億円(5.5億円)

教員免許課程の認定を受けている大学・大学院・短大

◆地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム・・・予算額13億円(7.5億円)

大学病院を置く大学・大学院、薬学部(6年制)を置く大学

(4) 国際競争力のある世界最高水準の研究教育拠点形成

◆21世紀COEプログラム・・・予算額378億円(382億円) * 18年度の新規公募はなし

大学院(博士課程)レベルの専攻等

「現代GP」の新規テーマに“環境教育”“キャリア教育”

「現代GP」とは、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題(テーマ)を踏まえた取組を推進し、大学教育改革をはかろうとする大学・短大等に重点的に財政支援を行う事業である。「実績がなくても、明確に設定されたテーマを基に、今後の計画性がある取組を選定・支援する」としており、18年度で3年目となる。採択件数は、申請の状況等により調整するが、全体として申請件数の2割以内または90件程度となっている。

* なお、文中の「現代GP」の申請件数・採択件数には、高等専門学校(高専のみの単独・共同申請とも)は含まない。

【募集テーマは6種類】

18年度に設定されたテーマは以下のとおり。17年度のテーマからの変更は、「仕事で英語が使える日本人の育成」「人材交流による産学連携教育」に代わり、「持続可能な社会につながる環境教育の推進」「実践的総合キャリア教育の推進」となった。

募集テーマ

* 支援期間・交付額がテーマごとに異なるため、〔 〕に補助金基準額・財政支援期間を併記した。

地域活性化への貢献(地元型)〔1,600万円以内/年、2～3年間〕

地域活性化への貢献(広域型)〔2,400万円以内/年、2～3年間〕

知的財産関連教育の推進〔1,200万円以内/年、2～3年間〕

持続可能な社会につながる環境教育の推進〔1,800万円以内/年、2～3年間〕

実践的総合キャリア教育の推進〔1,800万円以内/年、2～3年間〕

ニーズに基づく人材教育を目指したe-Learning Programの開発〔2,400万円以内/年、2～3年間〕

申請は政策課題の重要性やテーマの性質等を考慮し、のテーマの中から1件、～のテーマの中から2件となっており、1大学で最高3件を申請できる。テーマによっては大学院からの募集も可能となっている。

■18年度「現代GP」全申請・採択状況一覧

(表1)

区分		地域活性化への貢献 (地元密着型)		地域活性化への貢献 (広域展開型)		知的財産関連教育の推進		接続可能な社会 につながる環境教育の推進		実践的総合キャリア教育の推進		ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Programの開発		合計	
		大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大
国立	申請件数	20	0	28	0	6	0	31	0	41	0	25	0	151	0
	採択件数	7	0	6	0	1	0	4	0	9	0	5	0	32	0
	採択率	35.0%	—	21.4%	—	16.7%	—	12.9%	—	22.0%	—	20.0%	—	21.2%	—
公立	申請件数	6	4	15	0	2	0	5	0	13	0	3	0	44	4
	採択件数	3	2	2	0	0	0	1	0	3	0	1	0	10	2
	採択率	50.0%	50.0%	13.3%	—	0.0%	—	20.0%	—	23.1%	—	33.3%	—	22.7%	50.0%
私立	申請件数	54	16	39	5	12	1	24	2	88	18	30	3	247	45
	採択件数	9	1	10	1	2	0	6	0	15	3	5	0	47	5
	採択率	16.7%	6.3%	25.6%	20.0%	16.7%	0.0%	25.0%	0.0%	17.0%	16.7%	16.7%	0.0%	19.0%	11.1%
小計	申請件数	80	20	82	5	20	1	60	2	142	18	58	3	442	49
	採択件数	19	3	18	1	3	0	11	0	27	3	11	0	89	7
	採択率	23.8%	15.0%	22.0%	20.0%	15.0%	0.0%	18.3%	0.0%	19.0%	16.7%	19.0%	0.0%	20.1%	14.3%
共同の取組	申請件数	3		2		0		1		2		2		10	
	採択件数	0		0		0		1		0		1		2	
	採択率	0.0%		0.0%		—		100.0%		0.0%		50.0%		20.0%	
合計	申請件数	103		89		21		63		162		63		501	
	採択件数	22		19		3		12		30		12		98	
	採択率	21.4%		21.3%		14.3%		19.0%		18.5%		19.0%		19.6%	

(注1)採択率(%)=採択件数÷申請件数×100
 (注2)一覧には、高専(高専のみの単独・共同件数)は含まない。

「現代GP」の申請・採択状況

【申請件数は501件、採択は98件】

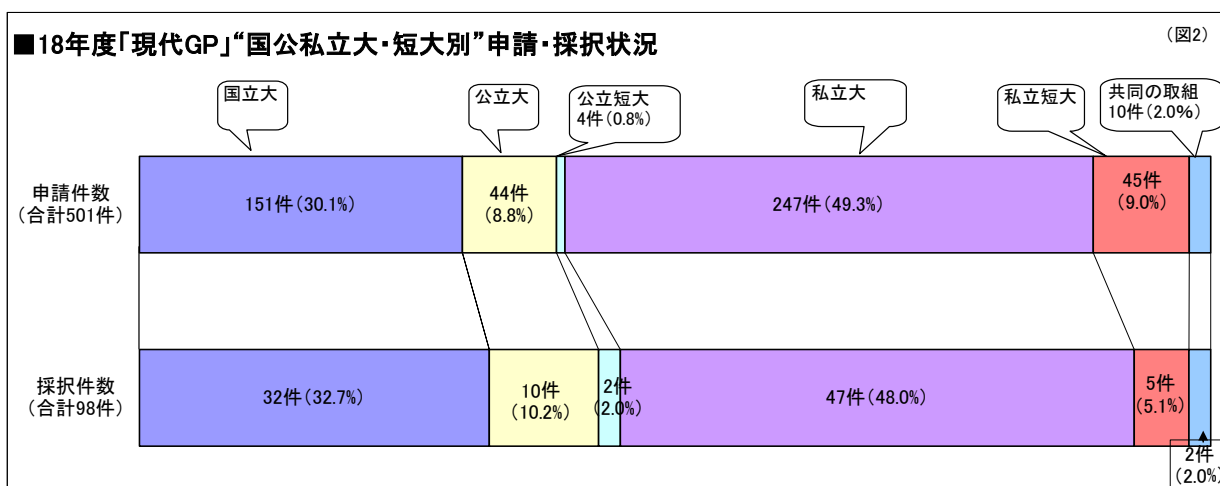
18年度の申請件数は国公立大学・短大を合わせ501件(以下件数ベース。高専を除く)で、17年度より43件(9.4%)増加した。設置者別にみると(図2参照)私立大が247件で最も多く全体の49.3%を占める。以下、国立大151件(全体の30.1%)、私立短大45件(同9.0%)、公立大44件(同8.8%)、

審査は、文科省が設置した「現代的教育ニーズ取組選定委員会」(専門家・有識者等から構成される)により実施された。選定の過程では、面接審査等も実施された。

申請501件のうち、採択されたのは98件、採択率は19.6%で、17年度より22件(28.9%)の増加。内訳は大学が89件(全体の90.8%)、短大の取組が7件(同7.1%)、共同の取組(以下、「共同」と略)が2件(同2.0%)だった(表1参照)。

採択を国公立大・短大別でみると、私立大が47件で最も多く、全体の48.0%を占める。以下、国立大32件(同32.7%)、公立大10件(10.2%)などとなっている。

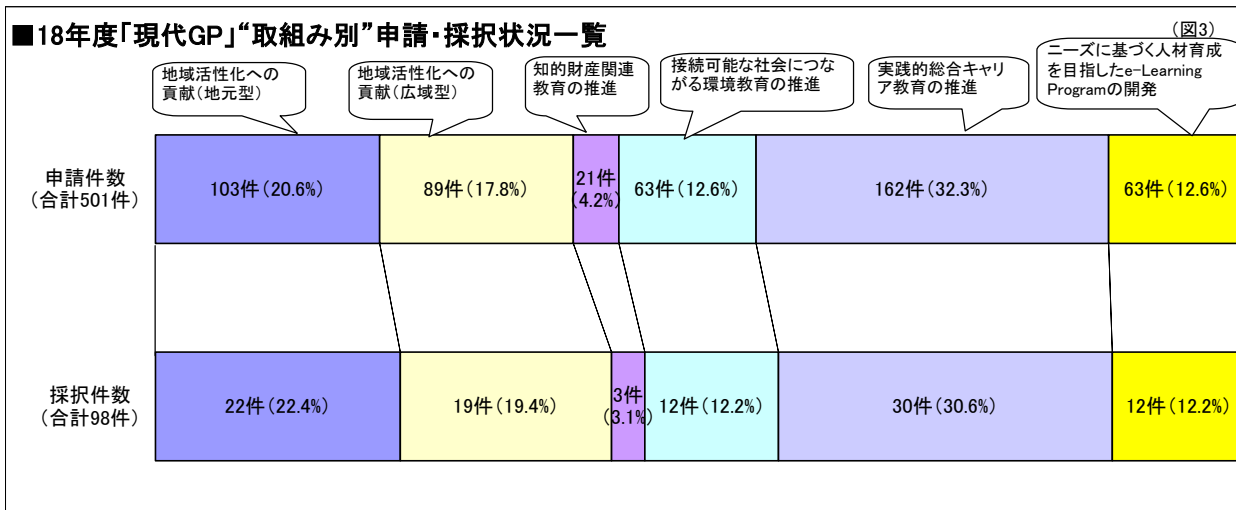
また、エリア別では東京が17大学(19件)、大阪8大学(8件)、京都6大学(7件)、愛知6大学(6件)など41都道府県にわたっており、17年度の25都道府県から大幅に拡大した。



「現代GP」のテーマ別申請・採択状況

6つのテーマそれぞれの申請および採択件数は、図3の通り。「地域活性化への貢献」(地元型および広域型合わせて)が申請(全体の38.4%)・採択(同41.8%)ともに最も多かった。

内容は、高齢化社会や福祉健康課題に対応した医療系分野や、テーマに関わらず“地域との連携”を主眼にした取組が目立った。



各テーマ別の申請・採択状況は次の通り。採択校と取組の名称は、P.10からの表4を参照。

地域活性化への貢献(地元型)

【採択状況】申請103件中、22件が採択された(採択率21.4%)。大学=申請80件、採択19件。短大=申請20件、採択3件。共同の取組=申請3件、採択0件。

【特徴と事例】大阪教育大の「地域連携学校教育のできる教員養成」は、既に実績のある地域との連携を踏まえた活動を通じて、「地域に愛着を持ち地域に根ざした子ども」を育成することのできる人材養成を目指したもの。特に、“スタディ・アフター・スクール”の取組は、19年度よりスタートする文科省と厚生労働省の連携による「放課後子どもプラン」の推進にも繋がり、子どもたちの放課後の教育問題や家庭・地域の教育力に着目した点が高く評価された。県立広島大の「学生参加による世界遺産宮島の活性化」は、世界遺産の宮島に焦点を当て、宮島学の研究、教育、宮島情報の発信、宮島地域との連携により、教育活動と観光振興の促進を図り、歴史の継承と発展を担う人材の育成をするもの。

地域活性化への貢献(広域型)

【採択状況】申請89件中、19件が採択された(採択率21.3%)。大学=申請82件、採択18件。短大=申請5件、採択1件。共同の取組=申請2件、採択0件

【特徴と事例】東京農大の「多摩川源流域における地域再生と農環境教育」は、多摩川の源流に着目し、「源流域」の伝統的な文化を体験させることを提唱するというユニークなプログラム。立命館大の「人文学的知の地域還元で変わる歴史都市京都」は、大学が立地している京都市北西地域の文化的伝統に人文学の視点からアプローチし、その特色や観光資源としての魅力を再発掘しようとする取組。現在、大学教育において教養教育が軽視されがちであるという風潮に対して、教養教育を通しての地域活性化への貢献という視点を導入したことが評価された。

知的財産関連教育の推進

【採択状況】申請21件中、3件が採択された(採択率14.3%)。大学=申請20件、採択3件。短大=申請1件、採択0件。共同=申請0件。

【特徴と事例】早大の「映画・映像制作人材育成の新教育システム」は、わが国の重要なコンテンツ産業である映画・映像分野において、高い国際競争力を持つクリエイター・技術者・プロデューサーを育成するための学部・大学院が連携して教育システムを構築するもの。

持続可能な社会につながる環境教育の推進

【採択状況】申請 63 件中、12 件が選定された（選定率 19.0%）。大学 = 申請 60 件、採択 11 件。短大 = 申請 2 件、選定 0 件。共同 = 申請 1 件、選定 1 件。

【特徴と事例】**昭和女大**の「せたがやの環境共生の人づくり・街づくり」は、“世田谷の街づくり”をテーマとするインターンシップやフィールドワークでの発見や体験を通して、環境と調和した都市や地域のあり方を学ぶ取組。**近畿大**の「里山の修復活動を通じた環境理解教育の実践」は、17 年度に設置した里山委員会（農学部学生・院生・教職員による）で始めた里山修復プロジェクトを基盤としたもの。キャンパスの里山をフィールドとして活かし、その修復活動を軸とした「人と自然の関わり合い」に関する実体験的な環境教育を提案、農学教育の改革におけるひとつの方向性を提示すると評価された。

実践的総合キャリア教育の推進

【採択状況】申請 162 件中、30 件が採択された（採択率 18.5%）。大学 = 申請 142 件、採択 27 件。短大 = 申請 18 件、採択 3 件。共同 = 申請 2 件、採択 0 件。

【特徴と事例】**新潟大**の「企業連携に基づく実践的工学キャリア教育」は、キャリアセンター主導でマーケティング、キャリア・デザイン、テクノロジー・インターンシップという切り口から、専門（工学）教育におけるキャリア教育を実践・提案している取組。**法政大**の「大規模私学での大卒無業者ゼロをめざす取組」は、大卒無業者ゼロを目指し、卒業生が在学学生を、在学学生は同じ在学学生または高校生をそれぞれ相手にキャリア相談の実習を体験し、その中で自らの経験を相対化しキャリア意識、職業意識を涵養しようという斬新な試み。学部学生全員が、下級生や高校生を対象とするキャリア相談活動を行うために「キャリア相談事前指導」「キャリア相談実習」の 2 科目が 19 年度新入生から必修科目となる。

ニーズに基づく人材育成を目指した e Learning Program の開発

【採択状況】申請 63 件中、12 件が採択された（採択率 19.0%）。大学 = 申請 58 件、採択 11 件。短大 = 申請 3 件、採択 0 件。共同 = 申請 2 件、採択 1 件。

【特徴と事例】**島根大**の「地域医療教育遠隔支援 e ラーニングの開発」は、医学科・看護学科の最高学年の学生を対象に、へき地を含む県内の地域医療病院や保健福祉施設と大学との間の双方向通信を活用した医学・看護学統合型 e-ラーニングの教育モデルを構築するもの。地域治療や訪問看護に焦点を当てた全人的医療人の育成を目指したプログラム。

【複数採択は 10 校】

18 年度はテーマによって、複数申請が可能であった。その結果、**山形大、筑波大、広島大、徳島大、長崎大、県立広島大、武蔵野美大、早大、金沢工大、立命館大**の 10 校が 2 テーマで採択された。

「特色 G P」は“課程別”公募に

一方、既に 15 年度から実施されている「特色 G P」は、「“大学教育の工夫改善について”継続的に実績をあげている取組を選定」し、1 件当たり上限で年間 1,550 万円（補助金基準額）を、2～3 年間交付するもの。採択件数は、申請の状況等により調整があるが、全体として申請件数の 1 割程度以内となっている。

【申請区分】

18 年度から申請区分が学位を与える課程ごとに、下記のとおり変更となった。

<申請区分>

学士課程、短期大学士課程；	教育課程の工夫改善を主とする取組 教育方法の工夫改善を主とする取組 上記以外の教育の工夫改善に関する取組
修士課程；	人社系の教育の工夫改善に関する取組 理工農系の教育の工夫改善に関する取組 医療系の教育の工夫改善に関する取組

【取組の要件】

教育目的を達成するために、これまで**組織的・継続的**に実施し、実績を上げている取組

- ・組織的 = 学士課程は学部単位以上、短期大学士課程は学科単位以上、修士課程は専攻単位以上で実施している取組

各大学・短大の**学位を与える課程**の教育目的・役割を明確化し、学生に対する**体系的な教育**として、さらに充実・発展させる取組

- ・学位を与える課程 = 学修の成果を適切に評価して単位を認定するなどの取組が望ましい。
 - ・体系的な教育 = 教育カリキュラム及び学生教育の充実・改善を踏まえた補完的な教育などを含む。
- 申請は各申請区分に1件に限られるが、別途複数大学の共同申請も認められている。

■18年度「特色GP」全申請・採択状況一覧表

(表2)

区分		教育課程		教育方法		左記以外		人社系	理工農系	医療系	合計		
		大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学院(修士課程)			大学	短大	大学院
国立	申請件数	22	0	30	0	9	0	9	11	2	61	0	22
	採択件数	5	0	7	0	2	0	0	2	1	14	0	3
	採択率	22.7%	-	23.3%	-	22.2%	-	0.0%	18.2%	50.0%	23.0%	-	13.6%
公立	申請件数	7	3	13	3	3	0	4	3	0	23	6	7
	採択件数	0	1	2	1	0	0	1	0	0	2	2	1
	採択率	0.0%	33.3%	15.4%	33.3%	0.0%	-	25.0%	0.0%	-	8.7%	33.3%	14.3%
私立	申請件数	39	18	68	19	29	21	12	2	4	136	58	18
	採択件数	3	3	8	2	4	3	2	0	1	15	8	3
	採択率	7.7%	16.7%	11.8%	10.5%	13.8%	14.3%	16.7%	0.0%	25.0%	11.0%	13.8%	16.7%
小計	申請件数	68	21	111	22	41	21	25	16	6	220	64	47
	採択件数	8	4	17	3	6	3	3	2	2	31	10	7
	採択率	11.8%	19.0%	15.3%	13.6%	14.6%	14.3%	12.0%	12.5%	33.3%	14.1%	15.6%	14.9%
合計	申請件数	89		133		62		47			331		
	採択件数	12		20		9		7			48		
	採択率	13.5%		15.0%		14.5%		14.9%			14.5%		

(注1) 採択率(%) = 採択件数 ÷ 申請件数 × 100

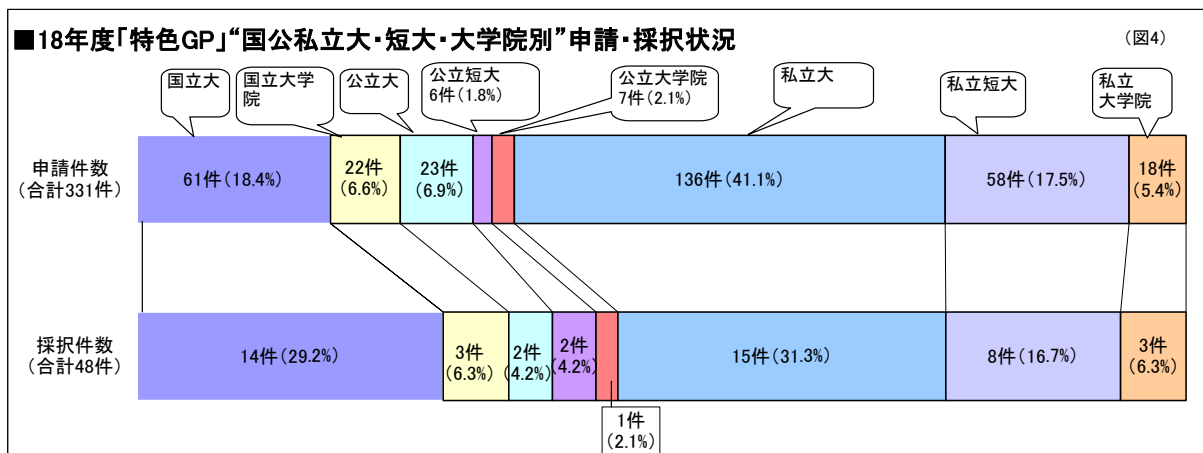
(注2) 区分: 大学 = 学士課程、短大 = 短期大学士課程、大学院 = 修士課程

「特色GP」の申請・採択状況

【申請件数は17年度より19.3%減】

18年度の申請件数は17年度より79件(19.3%)減の331件であった。設置者別にみると、私立大が136件で最も多く全体の41.1%を占める。以下、国立大61件(全体の18.4%)、私立短大58件、(同17.5%)など。17年度と比較すると、私立大は50件(26.9%)減となっているのが目立つ。

なお、今回から新たな申請区分となった大学院(修士課程)は、申請47件(国立22件、公立7件、私立18件)だった(表2参照)。



【採択率は14.5%】

審査は文科省所管の(財)大学基準協会が設置した委員会により、書面およびヒアリングにより実施された。申請331件のうち、85件がヒアリングに進み、最終的に48件が選ばれた。採択率は14.5%と

17年度(採択率11.5%)に比べ3.0ポイントのアップとなった。内訳は大学が31件(全体の64.6%)、短大が10件(同20.8%)、大学院が7件(同14.6%)。国公私立大別では、私立大が15件で最も多く、全体の31.3%を占めた。次いで国立大14件(同29.2%)と続く(図4参照)。

【大学(学士課程)の採択率は依然、国立優位】

大学(学士課程)に絞って各設置者別の採択率をみると、国立大23.0%(17年度16.7%)、公立大8.7%(同5.7%)、私立大11.0%(同10.8%)だった。国立大の採択率が公立大・私立大を大きく上回っている。またエリアでみると、採択31件中、東京が8件、北海道と京都が各3件となっている。

「特色GP」の区分別申請・採択状況

区分別の申請および採択件数は、図5の通り。「教育方法の工夫改善」が申請・採択ともに最も多かった。大学・短大といった区分にこだわらず、大学のユニバーサル化による学生の学力低下に対応した取組(初年次教育)やIT教育に関わる取組が目立つ。

(図5)

■18年度「特色GP」“区分別”申請・採択状況一覧

	教育課程の工夫改善 89件(26.9%)	教育方法の工夫改善 133件(40.2%)	左記以外 62件(18.7%)	人社系 25件(7.6%)	理工農系 16件(4.8%)
申請件数 (合計331件)	89件(26.9%)	133件(40.2%)	62件(18.7%)	25件(7.6%)	16件(4.8%)
採択件数 (合計48件)	12件(25.0%)	20件(41.7%)	9件(18.8%)	3件(6.3%)	2件(4.2%)

医療系6件(1.8%)

*上記のうち、「教育課程」「教育方法」「左記以外」の区分が、大学(学士課程)、短大(短期大学士)の申請となる取組。それ以外は、大学院(修士課程)の取組

大学(学士課程)の各テーマ別の申請・採択状況は、次の通り。採択校と取組の名称は、P.12の表5を参照。

教育課程の工夫改善

【採択状況】申請89件中、12件が採択された(採択率13.5%)。大学=申請68件、採択8件。短大=申請21件、採択4件。

【特徴と事例】東北大の「『学びの転換』を育む研究大学型少人数教育」は、学生の学びを受験中心型から「大学での学び」へ転換させることを目的とし新入生すべてに実施している「基礎ゼミ」を改善・推進する取組。入学早期に、文系の学生が理系の、理系の学生が文系の学術に理解を深め、相互に啓発しつつ自ら学ぶ楽しみを発見するという点が評価された。玉川大、関西国際大の取組も初年次教育の実践に関するもの。武蔵野美大の「美術と福祉プログラム」は、教員免許に関わる介護体験を、美術と福祉を結びつける造形ワークショップという形でカリキュラムの中に位置づけており、教員のサポート、資料閲覧室の設置などにより組織的に組み立てられた取組。

教育方法の工夫改善

【採択状況】申請133件中、20件が採択された(採択率15.0%)。大学=申請111件、採択17件。短大=申請22件、採択3件。

【特徴と事例】滋賀大の「びわ湖から学ぶ環境マインド」は、教育学部の教育目標である「環境教育、環境保全リーダーとなりうる教員や社会人の育成」を達成するために、50年以上にわたって組織的に実施し、湖上体験学習や環境教育のスペシャリスト養成に成果を挙げている取組。2006年3月に新しい調査艇が建造されたのを期に、これまで選択科目であった湖上体験学習を1年次生の必修科目とした。公立はこだて未来大の「解がない問題への自己組織的アプローチ」は、講義で学んだ解法を直接適用で

きないような実社会における“解が存在しない”多くの問題を解決するために、学生が「自発的な学習」をすることなどを可能にする具体的な教育手順を構築したもの。**名古屋学院大**の「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」は、学生の基礎学力・学習意欲の低下に対処するため、インターネットを活用した自学自習システムを構築し、独自のコンテンツを開発することで成果を上げている取組。

上記以外の工夫改善

【採択状況】申請 62 件中、9 件が採択された（採択率 14.5%）。大学 = 申請 41 件、採択 6 件。短大 = 申請 21 件、採択 3 件。

【特徴と事例】**立教大**の「学生相談を核とした全学的学生支援の展開」は、50年以上の歴史を持つ“学生相談所”を核とし、相談活動から得られた学生状況・発達への理解を、学生相談所所員会を活用して学内へ還元し、新たな学生支援施策や正課・正課外プログラムに活かし体系化している取組。

【慶大は4年連続採択！】

17 年度に採択された取組は応募対象外だが、テーマが異なれば 18 年度も連続の応募が可能となっている。その結果、**慶大**は4年連続の採択（今年度は修士課程）、また**山口大**・**京都精華大**は3年連続の採択となった。また、**千葉大**は学士課程と修士課程の2課程で採択された。

その他の取組の概要

地域医療等社会的ニーズに対応した医療人養成推進プログラム

下記2テーマで実施。今回は“医師の地域偏在・分野別偏在”と18年度からスタートした“6年制の薬学教育”に焦点があてられた。18年度予算額は13億円。

【テーマ 分野別偏在に対応した医師の養成】

大学病院を置く国公立大を対象とした、医師の不足が深刻な小児科・産科・麻酔科・救急の各診療科・部門における人材養成を目的とした特色ある優れた取組を選定・支援するもの。補助金基準額は年間2,900万円以内、3年間の予定。18年度は55件の申請があり、11件が採択された。採択の設置別内訳は、国立8件、公立1件、私立2件、共同の取組0件だった。

【テーマ 臨床能力向上に向けた薬剤師の養成】

薬学部（薬剤師養成の6年制の学科）を置く国公立大が質の高い薬剤師を養成するための教育内容・方法の開発や展開を行う取組を選定・支援するもの。補助金基準額は年間2,900万円以内、3年間の予定。18年度は55件の申請があり、11件が採択された。採択の設置別内訳は、国立3件、公立1件、私立6件、共同の取組1件だった。

資質の高い教員養成推進プログラム（教員養成GP）

教員免許課程の認定を受けている大学、大学院、短大を対象とし、義務教育諸学校以外の学校（幼稚園、高等学校）の教員養成や、大学院段階における高度専門職業人としての教員養成機能の一層の充実・強化を図る取組を支援するもの。1件当たり補助金基準額2,000万円（年間）の交付で、財政支援は2年以内。18年度予算額は9億円。18年度は92件の申請があり、24件が採択された。採択の設置別の内訳は、国立12件、公立1件、私立8件、共同の取組3件となっている。

『魅力ある大学院教育』イニシアティブ

大学院における意欲的かつ独創的な教育の取組を支援し、創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るもの。1件当たり上限5,000万円程度（年間）の補助金交付を予定。財政支援は2年間となっている。18年度予算額は42億円。申請数は268件（国立181件、公立25件、私立62件）で、採択数は46件（国立34件、公立2件、私立10件）。

19年度は“新COE”が復活！

【19年度の「現代GP」「特色GP」】

19年度の「現代GP」の予算要求額は70億3,000万円で、18年度より24億4,000万円（53.2%）増と大幅に増加。「特色GP」の予算要求額は34億8,000万円で、18年度と同額となっている。19年

度の新規取組の一つに「グローバルCOEプログラム」があげられるが、これは17年度から新規募集が中断されている「21世紀COEプログラム」に代わるものとして、注目される。

ところで、このように「現代GP」「特色GP」とも19年度は実施予定であるが、「現代GP」の申請件数(大学のみ)が過去3年間安定しているのに対し、「特色GP」の申請件数(大学の単独申請のみ)を15年度から18年度の推移でみると、国立大93件 61件(34.4%減) 公立大46件 23件(50.0%減) 私立大338件 136件(59.8%減)と、毎年減少しており、全体で53.9%と大幅減となっている(表3参照)。その背景としては、大学院教育を対象としたプログラムの増加をはじめとするプログラムの種類の細分化による他プログラムへの転換があげられよう。同一プログラムでもテーマ・対象の細分化は進み、既存プログラムの変更が今後も増加することが考えられる。

■「現代GP」の年度別申請・採択件数の推移

設置別		16年度	17年度	18年度	対16年度比
国立大	申請	128	125	151	118.0%
	採択	31	28	32	10.3%
	採択率	24.2%	22.4%	21.2%	
公立大	申請	49	49	44	▲89.8%
	採択	8	7	10	125.0%
	採択率	16.3%	14.3%	22.7%	
私立大	申請	257	222	247	▲96.1%
	採択	35	33	47	134.3%
	採択率	13.6%	14.9%	19.0%	
合計	申請	434	396	442	101.8%
	採択	74	68	89	120.3%
	採択率	17.1%	17.2%	20.1%	

(注)大学(特色GPは学士課程)のみ。共同の取組は除く。

■「特色GP」の年度別申請・採択件数の推移 (表3)

設置別		15年度	16年度	17年度	18年度	対15年度比
国立大	申請	93	80	72	61	▲34.4%
	採択	23	18	12	14	▲39.1%
	採択率	24.7%	22.5%	16.7%	23.0%	
公立大	申請	46	41	35	23	▲50.0%
	採択	6	3	2	2	▲66.7%
	採択率	13.0%	7.3%	5.7%	8.7%	
私立大	申請	338	260	186	136	▲59.8%
	採択	26	20	20	15	▲42.3%
	採択率	7.7%	7.7%	10.8%	11.0%	
合計	申請	477	381	293	220	▲53.9%
	採択	55	41	34	31	▲43.6%
	採択率	11.5%	10.8%	11.6%	14.1%	

【19年度の主な新規取組概要】

19年度は前述した“新たなCOEプログラム”の実施等、大学院教育の充実を目指す取組をはじめとする新規プログラムが予定されている。新規公募の主なプログラムは、次のとおり。

- ・「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」; 大学・短大等における教育研究資源を活用しつつ、地域等と連携しながら社会人(ニート等を含む)の学び直しニーズに対応した教育を支援するもので、予算額は48億円。
- ・「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」(仮称); 大学・短大等が実施する新たな社会的ニーズに対応した優れた総合的な学生支援の取組を対象とし、予算額は46億円。
- ・「がんプロフェッショナル養成プラン」; がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医等、がんに特化した医療人の養成をする大学等の取組を支援するもので、予算額は40億円。
- ・「グローバルCOEプログラム」; 「21世紀COE」の成果を踏まえ、世界的な卓越した教育研究拠点形成をより重点的に支援するもので、予算額は231億円。
- ・「大学院教育実質化推進プログラム」; 大学院教育を抜本的に強化し、産業界をはじめ社会の様々な分野で活躍する高度な人材を養成するための取組を支援するもので、予算額は104億円。

【志望大学選定に役立つ情報提供を】

18年度に採択された「現代GP」「特色GP」の取組の中には大学等におけるカリキュラムに反映されているものもあり、また「特色GP」の公募にもカリキュラムへの連動といった要件がある。GP開始当初に比べると、各大学は積極的にホームページ等で情報提供をするようになってきている。しかし、現代GP、特色GPに対する「情報提供等に関するアンケート」(文科省; 18年1月実施)では、高等学校等(中等教育学校等を含む1,567校)で“進路指導のために教職員が活用”している割合はわずか20%だった。大学選定に際し教育の中身を問われる現在、大学進学を目指す高校生等に対しても、高校生の目線に立った更なる情報提供が望まれよう。

次ページから、「現代GP」、「特色GP」のテーマ別採択状況一覧を掲載。

18年度「現代GP」テーマ別採択状況一覧

◆テーマ(1)＜地域活性化への貢献(地元型)；採択件数22件＞

(表4)

大学・短大名	設置	取組名称
弘前大	国立	地域医療型ユニカルクラークシップ教育国
東大	国立	畜産物の安全安心を保障する人材の育成教育 ー首都近郊集約型畜産の振興地区茨城中央部における実践教育ー
静岡大	国立	ものづくり教育はままつ10年構想 ー小中高理科教育から技術者養成までのサーモンプロジェクトー
三重大	国立	教育実践力の育成と学校・地域の活性化 ー中学校区全域との連携による学校・地域活性化モデル及び幼小中大連携モデルの構築ー
大阪教育大	国立	地域連携学校教育のできる教員養成 ー地域に愛着を持ち地域に根ざした子どもを育成できる教員養成プロジェクトー
徳島大	国立	医療系学生の保育所実習による子育て支援 ー地域の保育所での継続的実習による医療人としての人間形成ー
長崎大	国立	現代「出島」発の国際人育成と長崎蘭学事始 ー学生・留学生と市民参加による長崎の蘭学研究と文化・地域の活性化ー
神戸市看護大	公立	地元住民と共に学び共に創る健康生活 ー住民による教育支援と学生による地域支援の融合とeヘルスの活用ー
和歌山県医大	公立	地域と連携した健康づくりカリキュラム
県立広島大	公立	学生参加による世界遺産宮島の活性化 ー学生が宮島の魅力を再発見し、世界に発信するー
筑波学院大	私立	つくば市をキャンパスにした社会力育成教育 ー社会力を育てるOCP(Off Campus Program)の実践ー
和洋女大	私立	健康寿命の延伸と地域の共生 ー生活習慣病リスクの低減と障害者就業支援による地域活性化への取り組みー
共立薬大	私立	超高齢社会に必要な地域連携型薬剤師の養成
昭和音大	私立	「アーツ・イン・コミュニティ」プログラム ー地域と共に育つ音楽人の育成ー
金沢工大	私立	発展する地域連携プロジェクトの実践 ーポイント型地域連携プロジェクトからエリア型地域連携プロジェクトへの拡大ー
大阪経大	私立	地域に開かれた体験型環境・まちづくり教育 ー市民共同発電所づくりとまちづくり産業振興プログラムの創造ー
大阪人間科学大	私立	個性的な地域を創生する人材育成プログラム ー大学を「環境とアートのまちづくり拠点」にー
関西外語大	私立	学生人材バンクによる地域国際化の推進 ー枚方市小中一貫英語教育特区事業への地域人材の投入、学生参加型地域活性化の試みー
関西国際大	私立	大学、住民及び行政等の協働と地域活性化 ーシニア学生受入モデルとサービスマンシップモデルの開発ー
長野県短大	公立短	豊かな子どもを親を育む総合的短期大学の取組 ー長野市次世代育成支援行動計画・地域再生計画との連携を目指してー
新見公立短大	公立短	地域のニーズに応える看護専門職養成 ー在宅高齢者支援プログラムとサービスマンシップー
豊橋創造大短大	私立短	食をテーマとした地域活性化 ー地域貢献を通じた実践的教育ー

(注)高専は除く

◆テーマ(2)＜地域活性化への貢献(広域型)；採択件数19件＞

大学・短大名	設置	取組名称
山形大	国立	エリアキャンパス未来遺産創造プロジェクト ー大学の初年次教育と地域の人材育成を相乗的に活性化していく現地体験型授業ー
筑波大	国立	地域ヘルスプロモーションプログラム ー住民に対する予防・健康教育を担える医師養成のための体系的な教育プログラムー
群馬大	国立	地域密着型健康づくりプランナーの育成 ー健康スポーツクラブサービスをコアにしてー
阪大	国立	親と子の心を支援できる人材育成教育の構築 ー地域と連携した専門職育成教育プログラムー
広島大	国立	地域連携薬剤師高度化教育プログラム ー新生涯教育システムの構築を目指してー
九州工大	国立	地域環境再生のための地域支援型実習の展開 ー参加型プログラムによる地域と技術者教育の活性化ー
横浜市大	公立	学生が創る地域の子ども健康プロジェクト ー医学生と看護学生の連携による取組ー
京都府医大	公立	大学・地域一体型チーム地域医療教育 ー医学・看護学教育を通じた地域医療サービスの向上ー
東北福祉大	私立	地域減災教育による地域福祉の推進 ー「地域減災センター」と地域社会との協働による学習の実践ー
東北芸工大	私立	芸術とデザインによる廃校活用と地域教育 ー山形県内の廃校を活用した「あたらしいがっこう」による地域交流学習の推進・地域間ネットワーク形成と大学教育の連携ー
作新学院大	私立	衰退する都市郊外・近郊の持続的再生支援 ー人口流出に伴う空家を活用した学生参加のまちづくりとワークショップを中心とする実践的教育プログラムの展開ー
東海大	私立	東海大学発USR型モデルの創出・実践 ー多様なヒューマンリソースをマッチングして実践する地域活性化プロジェクトー
東京農大	私立	多摩川源流域における地域再生と農環境教育 ー多摩川源流大学の設置による地域再生プロジェクトー
日本大	私立	地域人材を活用した東京湾再生活動の展開 ー千葉県湾岸都市における仮想大学の構築と市民協働による地域環境整備と活性化の展開ー
武蔵野野大	私立	「いわむろのみらい」創生プロジェクト ー地域のランドデザイン形成を担う人材の育成と実践的教育プログラムー
同志社大	私立	公募制のプロジェクト科目による地域活性化 ー往還型地域連携活動のモデルづくりを目指してー
立命館大	私立	人文的知の地域還元で変わる歴史都市京都 ー「京都歴史回廊プログラム」の展開による地域連携ー
帝塚山大	私立	「心のケアとサポート」人材養成と自立支援 ー地域の活性化と安心・安全な社会の創造のための実践教育ー
高知学園短大	私立短	実践教育と連携した地域高齢者の食支援活動 ー地域高齢者の食支援と健康教育の実践ー

(注)高専は除く

◆テーマ(3)＜知的財産関連教育の推進；採択件数3件＞

大学・短大名	設置	取組名称
奈良女大	国立	可視化コンテンツクリエイタ養成プログラム
立教大	私立	国際ビジネスにおける知財活用人材の養成 ー法学部の知的財産教育における「コンパイル式授業」と「知財教育教材」の開発と実践ー
早大	私立	映画・映像制作人材育成の新教育システム ー学部・大学院連携による新しい教育モデルー

(注)高専は除く

◆テーマ(4)＜持続可能な社会につながる環境教育の推進；採択件数12件＞

大学・短大名	設置	取組名称
岩手大	国立	持続可能な社会のための教養教育の再構築 ー「学びの銀河」プロジェクトー
豊橋技科大	国立	持続社会コーディネーター育成 ー持続可能技術と社会の橋渡しを目指してー
徳島大	国立	豊饒な吉野川を持続可能とする共生環境教育
愛媛大	国立	瀬戸内の山～里～海～人がつながる環境教育 ー大学と地域との相互学びあい型環境教育指導者育成カリキュラムの展開ー
名古屋市大	公立	バナナ・ペーパーを利用した環境教育 ー多面的環境教育による、持続可能な社会形成主体の自己形成へー
国学院大	私立	歴史文化を踏まえた環境総合教育の拠点形成 ー地域と国際を結ぶフィールド実践による主体形成ー
昭和女大	私立	せたがやの環境共生の人づくり・街づくり ー地域とつくる継続的な次世代リーダー育成プログラムー
多摩美大	私立	バナナ・テキスタイル・プロジェクト ー地球環境問題とデザイン教育ー
高知工大	私立	淀川学(環境教育)の構築と実践 ー身近な環境から持続可能な社会を実現する取組ー
近畿大	私立	里山の修復活動を通じた環境理解教育の実践 ーキャンパス里山を素材とする人間と自然の相互作用の理解と環境倫理の養成ー
鹿児島純心女大	私立	川内川エコパートナーシップ ー川内川が育む環境教育と人づくり流域づくりー
佐賀短大、九州龍谷短大、佐賀女子短大	私立短	県内全短大連携による幼児期からの環境教育 ー地域の特色を活かした環境学習に貢献する人材育成プログラムー

(注)高専は除く。共同の取組に記載の最初の大学名は、主となる大学を示す。

◆テーマ(5) <実践的総合キャリア教育の推進;採択件数30件>

大学・短大名	設置	取組名称
山形大	国立	体験と実習を礎とする職業観形成法の確立
筑波大	国立	専門教育と融合した全学生へのキャリア支援 - キャリアポートフォリオと人的ネットワークの活用 -
新潟大	国立	企業連携に基づく実践的工学キャリア教育 - 職業意識の自己形成に向けた学生・技術者・教員の協働 -
名大	国立	専門教育型キャリア教育体系の構築 - 専門教育の質的発展を通じた学生・院生の資質向上 -
京都工繊大	国立	創造性豊かな国際的工系専門技術者の育成 - 伝統からイノベーション・ローカルからグローバルへ -
広島大	国立	学生提案型キャリア形成システム基盤構築 - 挑戦し、行動する人材教育の実現を目指して -
香川大	国立	地域連携型キャリア支援センターの新機軸
長崎大	国立	健全な社会を支える技術者の育成 - 安全・安心教育とものづくり教育を融合した地域に学ぶ総合キャリア教育の実践 -
鹿児島大	国立	地域マスコミと連携した総合的キャリア教育 - 「地方の視点」から問題発見・解決と提言を行なう人材の育成 -
富山県大	公立	学生の自立を促す総合型キャリア増進プラン
岡山県大	公立	実践的チームガバナビリティー育成教育 - 領域横断カリキュラムと臨床メンターを援用した実践的キャリア教育の試み -
県立広島大	公立	経営情報実践的総合キャリア教育の推進
千葉商大	私立	CUC生涯キャリア教育 - 小学生から社会人までのキャリア発達をめざして -
中央大	私立	産学連携教育による女性研究者・技術者育成 - 理工系女子学生のための産業キャリア教育プログラム -
東京音大	私立	音楽の「プロ」を目指す実体験プログラム - 音大生と社会を結ぶACTプロジェクト -
法政大	私立	大規模私学での大卒無業者ゼロをめざす取組 - 学生が行う「キャリア相談実習」による職業意識の質的強化 -
長岡大	私立	産学融合型専門人材開発プログラム - 長岡方式 -
金沢工大	私立	KIT産学連携教育プロジェクトの実践
金城学院大	私立	個重視・女性のためのキャリア開発サポート
日本福祉大	私立	新ふくしキャリア時代を生きる人材の養成 - 新ふくしキャリア教育カリキュラムとキャリアポートフォリオシステムによるキャリア形成を目指して -
京都女大	私立	女子学生のキャリア教育の体系化と普及 - 企業、教員、学生の共同による女子学生のキャリア形成プログラムの開発と実施 -
立命館大	私立	IT人材育成のための実践的キャリア教育 - 専門教育と実践教育を両輪とした国際感覚と高度なITスキルを持った人材の育成 -
関西大	私立	総合大学における標準型キャリア教育の展開 - 学生一人ひとりの勤労観・職業観を育む関西大学キャリア教育プログラム(K-CPEP) -
関西学院大	私立	教養教育としてのライフデザインプログラム
甲南大	私立	価値創造のできる21世紀型教養人の育成 - 知能社会に対応できる価値多様性と倫理感を備えた自律的・個性的人材育成のための実践的キャリア教育の実施に向けて -
倉敷芸術科学大	私立	人生を展望した総合的キャリア教育の実践
立命館アジア太平洋大	私立	グローバル人材養成のためのキャリア教育 - 専門教育とキャリア教育を一体化した人材育成プログラム -
聖徳大短大部	私立短	人間力を養成するユニット別キャリア教育 - 社会に貢献できる自立した女性の育成 -
中部学院大短大部	私立短	専門性と産業への理解を有する地域人の育成 - 地域での就業・創業に魅力を感じる体験型教育カリキュラムの開発 -
龍谷大短大部	私立短	イメージ創生を中心としたキャリア教育 - 視覚教材・学外教育資源・体験型学習を活用した体系的教育プログラム -

(注) 専専は除く

◆テーマ(6) <ニーズに基づく人材育成を目指したe-Learning Programの開発;採択件数12件>

大学・短大名	設置	取組名称
信州大	国立	自ら学び、学び続ける人材育成の基盤形成 - 教育の質保証を目指したe-Learningによる単位制度実質化 -
滋賀大	国立	知識創造型ユビキタスな学びプロジェクト - 携帯電話対応コメントカードシステムを活用した知識創造力の育成 -
島根大	国立	地域医療教育遠隔支援e-Learningの開発 - 地域医療病院・保健福祉施設実習における医学・看護学統合型e-Learningシステムの構築 -
熊本大	国立	e1 こころ学習プログラムの開発 - 教員志望のすべての学生にこころの健康一次予防力を養成するe-Learning Programの開発 -
鹿屋体育大	国立	実践的スポーツ指導者教育プログラム - インターン活動を包括的に支えるe-Learningプログラム -
札幌医大	公立	高大一貫型プログラムによる効果的職業教育 - マイナス1年生から1年生を対象としたITによる基礎保健医療教育の展開 -
成蹊大	私立	進化する教養教育と国際化新人材の育成 - 基礎力活用による中国語コミュニケーション能力育成展開プラン「遊」 -
東京慈恵会医大	私立	卒前教育教材から生涯継続学習教材へ - e-Learningを用いた医療系学部の地域医療者貢献 -
東京理大	私立	全人的教養教育の新たな展開 - 科学者としての良心を持ち、創造的知性を備えた人材の育成 -
武蔵野美大	私立	造形ファイル - 美術・デザイン教育のための知識モジュール群の開発 -
早大	私立	実務・研究力を高める次世代型教育システム - 学習環境基盤としてのe-learningから大学改革基盤としてのe-learningへの発展的利用 -
東京学芸大、福島大、埼玉大、上越教育大、琉球大	国立	教員養成のためのモジュール型コア教材開発 - 大学連携による臨床・実践・IT領域e-Learning用教材の共同開発 -

(注) 専専は除く。共同の取組に記載の最初の大学名は、主となる大学を示す。

18年度「特色GP」テーマ別採択状況一覧

●テーマ①<主として教育課程の工夫改善に関するテーマ;採択件数12件>

(表5)

大学・短大名	設置	取組名称	申請単位
室蘭工大	国立	オムニバス形式による技術者倫理教育の実践 - 自立した技術者を目指す総合学習の展開 -	工学部
東北大	国立	「学びの転換」を育む研究大学院少人数教育 - 基礎ゼミを起点とした「大学での学び」の構築 -	全学
新潟大	国立	学生主体の三位一体新歯学教育課程 - 社会に貢献する包括的歯科医師の育成を目指して -	歯学部
鳴門教育大	国立	教育実践の省察力をもつ教員養成 - 教育実践力自己開発・評価システムを組み込んだ教員養成コア・カリキュラムの展開を通して -	学校教育学部
熊本大	国立	工学教育から発信する大学教育の質保証 - ポジティブ・フィードバック型の組織的質保証 -	工学部
玉川大	私立	全学生参加型の一年次教育の実践 - 「一年次セミナー」の組織的展開 -	全学
武蔵野美大	私立	美術と福祉プログラム - 造形ワークショップの展開 -	造形学部
関西国際大	私立	初年次教育の総合化と学士課程教育への展開	人間学部
岩手県大盛岡短大部	公立短	自他の文化理解を柱とした国際文化教育 - コミュニケーションスキルを育成しながら -	国際文化学科
東京農大短大部	私立短	学生主導型体験実習が拓くキャリアデザイン	全学
松本大松商短大部	私立短	キャリア教育をベースとした課程教育の展開	全学
福岡医療短大	私立短	学科間相互乗り入れ授業による口腔介護教育	全学

●テーマ②<主として教育方法の工夫改善に関するテーマ;採択件数20件>

大学・短大名	設置	取組名称	申請単位
帯広畜産大	国立	「全学農畜産実習」を通じた総合的導入教育	全学
秋田大	国立	ゲーミング・シミュレーション型授業の構築 - 社会的実践力を培う体験的学習プロジェクト -	教育文化学部
東京工業大	国立	小中学校用バイオ教材開発による競創的教育 - 学生による教材づくりを通じた競創的および独創的創造性育成プログラム -	生命理工学部
三重大	国立	海外医学部と連携した臨床医学教育 - 世界に通用する臨床医学教育と国際社会で活躍する人材の育成を目指して -	医学部
滋賀大	国立	びわ湖から学ぶ環境マインド - 調査艇を利用した湖上体験学習 -	教育学部
山口大	国立	総合電子システムを活用した医学教育の改善 - 学生の自発的学習態度をはぐくむIT活用 -	医学部
鹿児島大	国立	鹿児島の中に世界をみる教養科目群の構築	全学
公立ほこだて未来大	公立	解がない問題への自己組織的アプローチ - 実社会で役立つ力の養成 -	システム情報科学部
和歌山県医大	公立	「ケアマインド」を併せもった医療人教育 - 緩和医療とロールプレイを通して -	医学部
恵泉女学園大	私立	専門性をもった教養教育としての体験学習 - 社会的公正をグローバルに目指す市民の育成 -	人間社会学部
駒沢女大	私立	自主自立を促すための面倒見ある教育	人文学部
日本医大	私立	学年や学部を超え互いに教えて学ぶ医学教育 - 従来型段階的学習と新しい包括的能動学習プログラムの融合 -	医学部
金沢工大	私立	学ぶ意欲を引き出すための教育実践 - KITポートフォリオシステムを活用した目標づくり -	全学
名古屋学院大	私立	ITによる経済学部教育の標準化と質保証 - 基礎学力と勉学意欲の低下に対処する自学自習システムと「経済学基礎知識1000題」 -	経済学部
京都外語大	私立	ティームティーチングによる二言語同時学習 - 外国語教育の新たな教授形態 -	外国語学部
京都精華大	私立	考えるための「日本語リテラシー」教育 - 初年次に構築する「自立した学習者」への足がかり -	人文学部
中村学園大	私立	21世紀型管理栄養士養成システムの構築 - 講義形式と実地形式授業との融合を目指して -	栄養科学部
新晃公立短大	公立短	実践力が育つ保育者養成システム - 実習・ボランティア・卒後指導を軸とした体系的学習支援 -	幼児教育学科
創価女子短大	私立短	体験学習を生かした実践的英語教育の取組 - 社会性と国際性に富む女性の育成を目指して -	全学
長崎短大	私立短	地域文化継承を核にした現代教養教育の展開	全学

●テーマ③<主として教育方法の工夫改善に関するその他のテーマ;採択件数9件>

大学・短大名	設置	取組名称	申請単位
千葉大	国立	学生主体の環境マネジメントシステムの運営	全学
愛媛大	国立	FD/SD/TAD三位一体型能力開発	全学
大東文化大	私立	アジア理解教育の総合的取組	国際関係学部
立教大	私立	学生相談を核とした全学的学生支援の展開 - 学生と大学をつなぐ「よろず相談」の活用 -	全学
日本福祉大	私立	知タウンシップによる教育イノベーション - 公私協力による生涯学習事業と連携した実践的学部教育 -	情報社会科学部
同志社大	私立	情報環境の整備と成績評価の厳格化 - 学修支援システムDUETとGPA得点分布公表 -	全学
白梅学園短大	私立	子育て広場を介し地域と学生を繋ぐ短大教育 - 学内7種の広場の連携をもとに、学生が企画する地域との交流を通して -	全学
湘北短大	私立	高大連携による地域教育ネットワークの形成	全学
龍谷大短大部	私立	体験型教育で学ぶ「共に生きる地域づくり」 - 校区住民と交流する「砂川アクション」と知的障がい者と共に学ぶ「ふれあい大学」の取組 -	全学

●修士課程テーマ①<人社会系の教育の工夫改善を主とする取組;採択件数3件>

神戸市外語大	公立	4学期・週末利用型リカレント教育大学院	外国学研究科英語教育学専攻
慶大	私立	慶應型ケースメソッドの確立 - 変革リーダーの育成と実践型大学院のFDの高度化を目指して -	経営管理研究科経営管理専攻
名古屋商大	私立	Weekend MBA - 社会人に対する週末型大学院 -	大学院全体

●修士課程テーマ②<理工農系の教育の工夫改善を主とする取組;採択件数2件>

筑波大	国立	プロジェクト実習による高度専門技術者養成	システム情報工学研究科知能機能システム専攻
横浜国大	国立	スタジオ教育強化による高度専門建築家養成	工学府

●修士課程テーマ③<医療系の教育の工夫改善を主とする取組;採択件数2件>

千葉大	国立	課題プロジェクトによる看護管理能力の開発	看護学研究科看護システム管理学専攻
神戸薬大	私立	実践型薬学教育による臨床指導薬剤師養成 - 6年制薬学教育における臨床実務実習充実のための指導薬剤師養成 -	薬学研究科